

けんぱくものしりシート

かご 駕籠



かご 駕籠にはたくさんの種類があり、おもに人や物の移動がさかんになった江戸時代の頃（1603～1867年）に使われていました。そのなかでも江戸幕府は1681（天和元）年に、決まったスタイル以外の町駕籠をつくることを禁止しました。その結果、四ツ手駕籠という町駕籠が一般の人たちの間で広まり、現在のタクシーのように使われるようになりました。駕籠は、身分制度のあった江戸時代の中で、身分の高い人から一般の人たちまでみんなが使うことができた珍しい乗り物です。しかし、同じ駕籠でも身分の高い人が使った豪華なものは“乗物”と呼ばれ、一般の人たちが使ったシンプルなものは“駕籠”



よつでかご
四ツ手駕籠は、
ほん たけ はしら
4本の竹の柱で
ささ
支えているのが
とくちょうです。

かご かつ しごと
駕籠を担ぐ仕事に
めんきよ
免許はいらなかった
らしいよ。体格が良く
たいかく よ
て体力や根性がある
たいりよく こんじょう
ることが大切だった
たいせつ
んだって。
じょうず ひと みず
上手な人は、水を
い ちや かた
入れた茶わんを肩に
お はず みず
置いて走っても水を
こぼさなかったらしいよ。





まわりを^{かこ}囲う“すだれ”は、誰^{だれ}が^の乗っているかわかるようにいつも^あ上げておいて、
^{てんき}天気が悪いときは^{わる}さげておくよ。

こ^よこち^の良く^の乗ってもらうためには、^{かご}駕籠を揺らさないのが一番^{いちばん}なんだけど、
 実^{じつ}は、と^{じつ}ってもむずかしいんだよ。だから、^{こえ}かけ声をかけて息^{いき}をぴったり^あ合わせる^{どりよく}努力^{どりよく}をしているよ。

^{かご}駕籠は、『^{いっちょう}一挺・^{いっちょう}一丁・^{いちぐ}一具』とかぞえるよ。

^{こし}腰を^{いた}痛めないように、^{しつかり}しっかりとつかま^{ります}ります。

お尻^{しり}が痛^{いた}くならないように、^{ざぶとん}座布団^{すわ}をして^{すわ}座ります。



^{めいじ}明治^{じだい}時代に^{べんり}便利な^{じんりきしゃ}人力車^が登場^{とうじょう}すると^{かご}駕籠^{つか}は使^{つか}われな^くく



^{じんりきしゃ}人力車

なります。また、^{どうろ}道路^{こうつう}や^{きかん}交通機関^{ととの}が整^{ととの}ってくと、

た^のく^{もの}さんの^の乗^{もの}り物^のがあらわれ^のれます。乗^{もの}り物^のは、^{みんな}みんなが^{あんぜん}安全^{きもち}で^{つか}気持ち^{つか}よく^{つか}使^{つか}え^{つか}る^{つか}ように^{げんざい}現在^{すこ}も^{くふう}少^{あたら}し^のず^{もの}つ^{けんきゆう}工^{けんきゆう}夫^{けんきゆう}さ^{けんきゆう}れ、^み新^みしい^み乗^みり^み物^みの^み研^み究^みも^みさ^みさ^みれ^みて^みい^みま^みす。未^み来^みには^みい^みっ^みた^みい^みど^みん^みな^みの^み乗^みり^み物^みが^みあら^みわれ^みる^みの^みで^みし^みょう^みね。

参考にした本 『イラストで見るモノのうつりかわり 日本の生活道具 百科④』 河出書房新社 1998年
 『旅の民俗と歴史6 旅の民俗 はきものとのりもの』 八坂書房 1987年 他

らいげつ がつ
 来月(7月)の
 けんぱくものしりシートは
 ちしつ
 地質-3だよ!
 おたのしみに!



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>